

令和元年度 司書講習 講義概要(シラバス)

生涯学習概論

講師 にしむら みとし
西村 美東士

講義概要・授業計画 図書館は、人と本をつなぐことによって個人学習を支援する。だが、生涯学習時代においては、さらに新たな意義と役割が期待される。それは、人と地域資源や社会資源の情報をつなぐことによって、人々の学び合い・支え合いのネットワークづくりやまちづくりの活動を支援するという役割である。

現在、社会教育主事講習は、「学校地域協働活動」、「ネットワーク型行政」をキーワードとして、レベルアップを図られようとしている（『社会教育主事の養成等の在り方に関する調査研究報告書』文部科学省等）。図書館専門職（司書・司書補）も、これらのキーワードについて、高い意識をもつ必要がある。そこで、本図書館司書講習においても、このような新しい観点を取り入れつつ、次のような内容を学修することとする。その際、自己の図書館職員としての位置づけを確かなものにできるよう、自己内対話、対他者対話を積極的に取り入れた能動的学習、双方向型学習を行う。

まず、資格取得のための学習、生きるための学習、楽しみとしての学習の意義と実際について検討する。次に、居場所としての図書館、図書館と学校との連携、図書館の学校との差別化について検討する。教育の原理については、学習者主体、目標設定などの意義について理解した上で、選書における教育的意図の内容や是非について検討する。さらに、社会教育の意義・発展・特質を把握する。自治体の行財政制度と教育関連法規及び公共図書館における関連する課題や解決方法を探る。社会教育の内容・方法・形態については、個人学習と集合学習、個人の学習の自由、アクティブラーニングの課題、自己内対話の充実について検討する。また、学習情報の提供と学習相談におけるカウンセリングマインド、図書館活動におけるPDCA、評価のあり方についても学ぶ。学習成果の評価と活用については、「なぜ社会貢献するのか」という本質から論ずる。さらに、関連施設のネットワークの意義と方法について検討する。最後に、「社会教育指導者の役割」については、個人化支援、社会化支援の意義と方法、そして、そのどちらでもない居場所等における「第3の支援」のあり方を議論する。

アドバイス 自己内対話、対他者対話による能動的学習、双方向型学習は、本科目の眼目ともいえる存在である。そのため、ワークが始まってからの不参加は欠席と同等とみなすので注意されたい。グループワークが苦手な人には、他の役割を配慮するので、講義の途中で申し出を受け入れる。

図書館概論

講師 むらやま たかお
村山 隆雄

講義概要・授業計画 図書館の意義、図書館の種類と機能、図書館政策、関係法規、図書館と類縁機関、図書館の動向と課題等、図書館の基本的機能と社会的役割について学びます。

1. ガイダンスと現代社会と図書館
2. 図書館を支える活動理念
3. 出版と図書館
4. 著作権と図書館
5. 図書館関連法規と行政・施策
6. 地域社会と図書館
7. 公共図書館の制度と機能
8. 学校図書館の制度と機能
9. 大学図書館の制度と機能
10. 専門図書館の制度と機能
11. 国立図書館の制度と機能
12. 外国の図書館
13. 図書館協力と図書館関係団体
14. これからの図書館
15. まとめと試験

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

アドバイス 図書館概論は、講習における学習・研究の出発点であるとともに帰結点でもあります。講習を機に、多くの各種図書館を訪問し実際に見、使うことを心がけてください。

図書館制度・経営論

講師 わたなべ まきこ
渡辺 真希子

講義概要・授業計画 図書館サービスを円滑に進める上で必要な組織運営にかかわる関連法規、自治体組織における政策的な位置づけ、図書館経営の考え方、職員、施設、予算等の運営資源の確保、サービス計画の実施と評価について学び、社会教育施設としての公共図書館の運営に必要な知識の習得と諸問題の理解を目的とします。

1. 図書館経営の考え方
2. 図書館サービスと関連法規
3. 組織と職員
4. 施設・設備管理
5. 図書館の財務
6. サービス計画と予算
7. 図書館業務・サービスの評価

教科書 糸賀雅児・葉袋秀樹 編著『図書館制度・経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）（樹村房、2013）

参考書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

アドバイス 図書館は、貸出やレファレンス、児童サービスや健康情報サービスといった企画立案型の各種サービスを提供しています。図書館にかかわる制度の理解と経営学的視点を身に付けることは、こうした実務やサービスを形にして動かしていくうえで欠かせないノウハウです。目的を達成するための実践力の一つとして、興味を持って参加してください。

講義概要・授業計画 図書館システムの導入・運用や図書館業務支援に必要な情報処理技術について講義します。前半は、最初に図書館を取り巻く情報処理技術や図書館システムの最新動向について概説し、続いてハードウェアとソフトウェア、OSとミドルウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズムなど情報処理技術の基盤となる仕組みについて概説します。後半は、図書館業務システム、検索サービス、ウェブサービス、セキュリティ、マネジメントなどについて、実際に私がこれまで開発・運用してきたシステムを紹介しつつ詳説します。また、機械学習やAI等にも言及します。「情報プロフェッショナル（インフォプロ）」として、システムライブラリアンのみならず、これからの図書館員に必要とされる情報処理技術（ITスキル）とは何か？にフォーカスします。主な講義内容を以下に示します。

- 前半：1. 図書館を取り巻く情報処理技術や図書館システムの最新動向 2. ハードウェアとソフトウェア
 3. OSとミドルウェア 4. ネットワーク 5. データベース 6. アルゴリズムとプログラミング
 7. クラウドインフラ 8. アプリケーションプログラミングインタフェース（API）
 9. コンテンツマネジメントシステム（CMS）
 後半：10. 図書館業務システム 11. 検索サービス（OPACとディスカバリーサービス）
 12. メタデータと全文検索 13. 集中処理と分散処理、バックエンドとフロントエンド
 14. ウェブサービスとハイブリッドアプリケーション 15. 機械学習、人工知能（AI）、RPA、ディープラーニング
 16. 情報セキュリティ 17. マネジメント 18. まとめと試験

教科書・参考書 購入の必要はありません。以下は一部です。

- ・田窪直規 編、岡紀子・田中邦英 著『図書館と情報技術』（樹村房，2017）
- ・河島茂生 著『図書館情報技術概論』（ミネルヴァ書房，2013）
- ・日本図書館情報学会研究委員会 編『メタデータとウェブサービス』（勉誠出版，2016）
- ・Louis Rosenfeld, Peter Morville, Jorge Arango 共著『情報アーキテクチャ 第4版』（オライリー・ジャパン，2016）
- ・森巧尚 著『アルゴリズムとプログラミングの図鑑』（マイナビ，2016）
- ・平山毅 著・監修『クラウドインフラとAPIの仕組み』（翔泳社，2016）
- ・三津村直貴 著『近未来のコアテクノロジー』（翔泳社，2018）
- ・落合陽一 著『デジタルネイチャー』（PLANETS，2018）
- ・角谷一成 著『基本情報技術者のよくわかる教科書』（技術評論社，2018）
- ・イエローテールコンピュータ 著『基本情報技術者出るとこマスター』（技術評論社，2018）

アドバイス 図書館員はインフォプロとして見られますので、システムライブラリアンでなくても、ITスキルは必須となります。「文系だからITはよくわからない・知らなくてもよい」とは言えない時代に来ています。時々刻々と創出される様々なメディアコンテンツの中からユーザーが立てた問いやストーリー（コンテキストやシナリオ）にマッチした情報を効率的に得るには最新の情報処理技術の習得が欠かせません。大学も教養＋実学＋文理融合の時代です。ざっくりでもよいので、情報処理技術の基本用語の意味や概念を把握しておきましょう。

図書館サービス概論

講師 とよこだ りょう
常世田 良

講義概要・授業計画 図書館の財政や組織、分類や目録、選書や配架、リクエストやレファレンス、コンピュータシステムなど、様々な人的物的資源や業務は全て利用者ニーズに対応するために存在しています。ニーズの内容は利用者の自己実現や課題解決のためであったりリクリエーションのためであったりと非常に多様です。図書館の個々の要素がいくら優れていても、最終的に高度で良質なサービスが提供されなければ意味がありません。講習の各授業では、図書館資源や業務についてそれぞれの分野を個別に独立させて学習することになりますが、図書館の現場ではそれらの資源や業務などの諸要素は複雑に絡み合っサービスや業務を構成しています。図書館における諸要素の有機的な関係が利用者や社会の変化と共にどのように変遷し、現在どのような状況にあり、またどのような理念、機能を生み出したかを理解しましょう。

1. 公共図書館の理念とサービス 2. 公共図書館のサービスの構造と図書館資源 3. 資料提供と全域奉仕
4. 対象者別サービス 5. 「図書館利用に障害のある人」へのサービス
6. 課題解決型サービス1（ビジネス支援サービス） 7. 課題解決型サービス2（医療健康情報サービス）
8. 課題解決型サービス3（法律情報サービス） 9. 課題解決型サービス4（行政支援サービス）
10. 媒体別サービスと集会事業 11. ハイブリッド型図書館と情報リテラシー支援
12. 図書館とボランティア 13. 公共図書館と著作権1（貸出、複写、映像貸料提供）
14. 公共図書館と著作権2（障害者サービスと著作権など） 15. 各種図書館とのネットワーク

アドバイス 居住地などの図書館に利用者登録をしましょう。自身の課題について質問をしてレファレンスサービスを受け、興味のない分野の書架についても目を通してください。図書館が扱う対象は森羅万象におよびます。社会のあらゆることについて興味をもちましょう。

講義概要・授業計画 膨大な情報があふれている現代社会において、すべての人が個人の力のみで求める情報を的確に収集し得ているでしょうか？ また膨大な情報を利用しやすく保存できているでしょうか？ それを個人の能力を超えて支えているのが社会基盤としての図書館です。

また図書館は利用者の求める情報を正確に速やかに提供してこそ利用者の信頼を得られます。本授業では、利用者の求める情報を草の根を分けても探し出し提供する図書館の情報サービスについて考えます。

授業の進め方は講義形式を中心としますが、適宜、受講生に発言を求めます。また受講生によるグループ討議や全体討議も行います。また討論テーマについては全員が意見をミニレポートにまとめて提出してもらいます。

1. 図書館の本質と情報サービス
2. 情報サービスの歴史
3. 情報サービスの種類
4. レファレンスサービスの理論と実践
5. 情報検索の理論
6. 各種情報資源の特質と利用法
7. 各種情報資源の評価と組織化
8. 発信型情報サービスの意義と方法
9. 利用者教育と情報リテラシー教育
10. 情報サービスにおける諸問題
11. まとめと試験

教科書 竹之内禎編著『情報サービス論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望：4）（学文社、2016）
今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）
（版元品切れにつき、最寄りの図書館で借りて読んでおきましょう）

アドバイス 図書館のレファレンスサービスコーナーへ行き、レファレンスブックを使ってみましょう。実際に利用することで授業の理解も深まります。また司書講習を受講する前に、身近な図書館をはじめ色々な図書館を見学しておくこと、上記参考書『新版 図書館の発見』を事前に熟読することをおすすめします。

講義概要・授業計画 本講義では、公共図書館における児童サービス（乳幼児からヤングアダルトのための図書館サービス）について、その意義と役割を理解し、児童図書館員として必要な知識と技術を身につけることを目的とします。具体的には、乳幼児サービス、児童サービス、ヤングアダルトサービスの業務内容を理解した後、児童資料の知識を深め、子どもと本を結ぶ方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等）について学びます。

授業はこちらで用意したレジメに沿って進めます。参考書は、授業中に紹介します。

基本的に講義形式ですすめますが、ディスカッション、読み聞かせの実践等、実習形式の側面も持ちます。

アドバイス 子どもに読書の楽しみを伝えるために、受講者自身も読書に親しみ、読書の幅を広げてもらいたいと考えています。授業までに、少なくとも1冊、おすすめの児童書（絵本含む）を作り、紹介できるようにしておいてください。

講義概要・授業計画 / (高梨 章) レファレンスサービスの仕事には二つの喜びがあります。一つは資料を知る・資料を読む喜びです。もう一つは利用者を知る・利用者を読む喜びです。この二つをクロスさせる仕事がこのサービスの仕事です。

1. レファレンスサービスの楽しさ・難しさ(レファレンスサービスの種類、レファレンスプロセス、レファレンスインタビュー、図書館員がつくる壁、利用者がつくる壁について)
2. レファレンスサービス担当者は、どんなふうに行事をしているのでしょうか(『図書館司書という仕事』を読む、「情報便利屋の日記」を読む、文献調査ガイダンス)
3. レファレンスブックについて 4. 発信型情報サービスについて

/ (伊藤 民雄) 「情報サービス論」で修得した基礎知識を踏まえて、レファレンスインタビューや質問回答を処理していくために要求される基本的な知識と技能について講義と演習(参考図書の解題と評価、パスファインダー作成など)を行い、また受講生同士による課題の相互評価も行います。図書館サービスの中心であるレファレンスサービスについて、演習課題を解決しながら参考図書の使い方を学び、質問の受付から回答までのプロセスを学習することによりレファレンスサービスの実践的な技術を修得します。

- ・情報サービスの設計、レファレンスコレクションの整備、レファレンスインタビューの技法と実際、質問に対する検索と回答、発信型情報サービスの実際

/ (千 錫烈) 情報サービスとは、図書館利用者の研究や調査を支援するために、利用者の質問や相談に基づいて情報検索や文献調査などを行い、適切な情報を案内・提供するサービスであり、その中心的なサービスであるレファレンスサービスについて学んでいきます。

インターネットの普及によって、様々な情報を簡単に入手することが可能になりましたが、全ての情報が電子化されているわけではありません。そのため、印刷資料でないと入手できない専門的な情報も多いです。本演習では主に印刷資料を中心にデータベースも取り扱いながらレファレンスサービスの演習を行います。

参考書 中西裕、松本直樹、伊藤民雄 共著 『第2版 情報サービス論及び演習(ライブラリー図書館情報学 6)』(学文社、2019)

竹之内禎 編著『情報サービス論』(学文社、2013)

山口真也・千錫烈・望月道浩編著『情報サービス論』(ミネラルヴァ書房、2018)

アドバイス / (高梨 章) 利用者から来る質問はクイズの問題ではありません。教科書の演習問題には、きちんとした形で質問が載っていますが、実は「質問」というものは、利用者と図書館員が共同で作成するものなのです。そこがキモだ、ということを常に忘れないようにしましょう。

/ (伊藤 民雄) レファレンスサービスはとにかく「習うより慣れろ」です。図書館の参考図書コーナーだけでなく、一般書架で調べ物に役に立ちそうな本を多く見ることをお勧めします。

/ (千 錫烈) レファレンスサービスは失敗を重ねながらも経験を積んでいくことが非常に大事です。本演習では実践のスタートラインに立てるべくスキルを身につけていきたいと思います。

講義概要・授業計画 / (高梨 章) 種々の演習問題に取り組みながら、参考図書や各種のデータベース、インターネット上の情報を駆使して回答してもらいます。その場合、大切なのは一つの問題に対し、アプローチを、戦略をいくつも考えること、用意することの大切さです。回答までのプロセスの大切さを学んでもらいます。

授業形態は、グループごとに演習問題に取り組み、図書館をブラウジング、あるいは国会図書館やNII その他のデータベース等を駆使して回答してもらいます。回答発表は、各グループから代表者が行います。同じ問題でもグループによってアプローチが違うことも勉強になります。併せて雑誌や新聞文献とデータベースの関係、また、参考文献・引用文献の読み方等についても学習します。

/ (伊藤 民雄) 情報サービスは、参考図書を駆使した従来からの手法に加えて、デジタル化された情報源を使いこなす知識と技能が要求されています。本講義ではコンピュータを使って演習を行います。「情報サービス論」で習得した基礎知識を踏まえて、情報検索の基礎、二次情報と対応するデータベース、そしてデータベースの仕組みを概観し、コンピュータを使った情報検索の手法を習得します。内容は、検索のための基礎知識、図書内容情報、雑誌記事情報、人物略歴情報、地域情報、インターネットの無料情報源を使った情報検索などです。

/ (千 錫烈) 私たちの日常では様々な情報があふれており、情報の探索・評価・利用といった「情報リテラシー能力」が強く求められています。本演習では、情報検索に関する基礎的な知識と技術を学び、データベースによる情報検索と演習を通じて図書館員として実践的な検索能力を身につけることを目標とします。また、パスファインダーの作成を通じて情報源の探索・収集・分析・加工・発表といった一連の「情報リテラシー能力」を修得していきます。

参考書 中西裕、松本直樹、伊藤民雄 共著 『第2版 情報サービス論及び演習(ライブラリー図書館情報学 6)』 (学文社、2019)
竹之内禎 編著『情報サービス論』(学文社、2013)
山口真也・千錫烈・望月道浩編著『情報サービス論』(ミネラルヴァ書房、2018)

アドバイス / (高梨 章) 最初は「わあ こんな問題 どうやればいいのか わからな〜い」ということも間々あると思いますが、気軽に質問してください。また、グループ内で議論、検討することがとても大切ですし、勉強になると思います。

/ (伊藤 民雄) 利用者からの質問内容を分析し、回答ツールとして電子メディアを選択したと想定するのが「情報検索演習」です。当教科では、電子メディアに回答ツールが制限されますが、現場では紙メディアを用いて回答してもよいのです。難しく考えず、気楽にいきましょう。

/ (千 錫烈) 皆さんも Yahoo! JAPAN や Google など普段から情報検索を行っていると思いますが、欲しい情報を的確に得られているでしょうか? 図書館で使用する専門的なデータベースを使用して的確な情報検索のスキルを身につけていきましょう。

情報資源概論

講師 むらやま 村山 たかお 隆雄

講義概要・授業計画 図書館情報資源を印刷資料、非印刷資料、電子資料等に類型化し、それらの特質、生産と流通、蔵書構築の意義、収集、蔵書評価、蔵書の管理と保存等、図書館サービスに必要な図書館情報資源に関する基本的事項を学びます。

1. 図書館情報資源とは
2. 図書館情報資源の種類：媒体別①印刷資料
3. 図書館情報資源の種類：媒体別②非印刷資料
4. 図書館情報資源の種類：媒体別③電子資料
5. 政府刊行物灰色文献と図書館
6. 学術情報資源の生産と流通
7. 人文科学分野の情報資源
8. 社会科学分野の情報資源
9. 自然科学・技術分野の情報資源
10. 資料の収集・選択・組織化
11. レファレンス・コレクションの構築
12. 蔵書構築と評価
13. 蔵書管理と書庫管理
14. 資料保存
15. まとめと試験

参考書 馬場俊明 編著『図書館情報資源概論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8) (日本図書館協会、2012)

アドバイス 印刷資料・電子資料など図書館が扱うほとんどすべての資料の概要を学びます。急速にデジタル化が進んでいますが、図書館に足を運んで資料の多様性を実感しましょう。

講義概要・授業計画 世界のグローバル化、社会の情報化が急速に進展するなかで、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。図書館の業務やサービスにおいても、その基礎となる情報技術の知識や技術の向上が不可欠となっています。図書館資料ということでみますと、これまでは印刷資料、非印刷資料、電子資料という分類がされてきました。現在では、従来の図書館資料の形態に「ネットワーク上の情報資源」も加えて、これらを含む概念として「図書館情報資源」という言い方がされるようになりました。

本講義では、こうした図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を中心に、できる限り幅広い視点から解説します。

- 1日目： ・開講にあたって ・情報資源組織化の意義 ・書誌コントロールと標準化
 ・書誌記述法(1) ・書誌記述法(2)
- 2日目： ・主題分析の意義 ・主題分析と索引法 ・主題分析と分類法(1)
 ・主題分析と分類法(2) ・主題分析と分類法(3)
- 3日目： ・書誌情報の作成・流通・提供 ・ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
 ・多様な情報資源の組織化 ・インターネットの進展と情報資源組織論の新しい潮流
 ・授業内テスト

- 参考書**
- ・榎本裕希子・石井大輔・名城邦孝『情報資源組織論』学文社、2012年
 - ・志保田務編著『情報資源組織論』ミネルヴァ書房、2014年
 - ・田窪直規編『情報資源組織論』樹村房、2011年
 - ・長田秀一『情報・知識資源の組織化』サンウェイ出版、2011年
 - ・那須雅熙『情報資源組織論及び演習』学文社、2012年
 - ・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東京大学出版会、2013年
 - ・北克一・平井尊士『学校図書館メディアの構成』放送大学教育振興会、2016年
 - ・柴田正美『情報資源組織論』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-9）日本図書館協会、2016年
 - ・志保田務・高鷲忠美編著、平井尊士共著『情報資源組織法』（第2版）第一法規、2016年
- その他の参考書は、授業時にその都度紹介します。

アドバイス 図書館はたくさんの資料を所蔵しています。これらが雑然と館内に置かれていたとしたら、どこにどんな資料があるのかわかりません。それを解消するために図書館で行われているのが「情報資源の組織化」です。その考え方の基本を皆さんと一緒に学びたいと思います。

情報資源組織演習(記述)-Aクラス-

講師 のぐち やすひと
野口 康人

講義概要・授業計画 図書館で扱う情報資源は従来からある図書に加え、視聴覚資料やオンライン情報などその種類の範囲を広げています。また扱う量も膨大となっており、これらの情報資源を利用者に効率よく、かつ円滑に提供していく必要があります。本科目では、利用者が目的の資料をストレスなく検索し活用できるよう、情報資源に関する情報を整理整頓した状態で蓄積していく方法について学びます。具体的には、日本目録規則(NCR)を使用し、目録や標目の作成方法について、演習を通して実践的に学びます。また、目録情報をいかにデジタル化し、電子的にやりとりするかについても学習します。

教科書 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 新訂版』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10）（日本図書館協会、2019） ※「新訂版第4刷発行 JLA201834」

ツール 日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）
 ※ツールはご用意します。

アドバイス 情報資源組織論で学んだ内容を習得していることを前提としますが、演習に必要な箇所は改めて説明しながら授業を進行しますので、どうぞご安心して受講ください。また、演習課題はクラスの状況に応じて進めていきます。焦る必要はないので、自分のペースで取り組んでいただければと思います。

講義概要・授業計画 情報資源と総称されるものは、図書・逐次刊行物などをはじめ多種多様であり、それは紙媒体であったり、ネット上に存在していたりと様々な様相を呈していて、それぞれに特性があります。この授業では、図書館で行われている、種別毎の、分類規則に沿った情報資源の目録作業を習得するため、ひととおりの概略の把握を目指し、今後、OJT の機会を得た場合は、そこで専門性を高めていけるように、そのための素地づくりを今ここで培っておくというイメージで、取り組んでみましょう。現在、既に業務に就いている場合は、その専門性にアカデミックな裏付けを加味することで、より重層的に捉えるスキルを養えるよう、そして、携わっている領域以外についても視野を広げられるよう、取り組んでみましょう。

教科書 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 新訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) (日本図書館協会、2019) ※「新訂版第4刷発行 JLA201834」

ツール 日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987年版改訂3版』(日本図書館協会、2006)
※ツールはご用意します。

アドバイス 昨今、複数の図書館の共同検索サイトが設置され、利便性に寄与していますが、中には、同一資料に対応する目録が各館毎に違う事例もあり、その場合、利用者が別資料として認識してしまうことも。まずは基本の規則に習熟し、その上で特例も学んでいきましょう。

講義概要・授業計画 演習を通じて主題組織の技術を習得します。とくに分類作業では、主題組織の理論の復習も兼ねて、分類規程や補助表など『日本十進分類法(新訂10版)』(NDC10)の使い方についてのひととおりの解説を行った上で演習を行います。演習では、第一に主題を分析し、そして取り出された主題に対して NDC の詳細な分類記号に翻訳します。NDC は2014年12月に新訂10版となりました。このため、以前のNDC9からの変更点についても解説します。また、分類作業とともに基本件名標目表(BSH)による件名作業の関連についても解説します。
以下のツールについては、ご自身のものを使用しても構いません。

ツール 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂10版』(日本図書館協会、2014)
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』(日本図書館協会、1999) ※ツールはご用意します。

アドバイス 情報資源組織論で得た知識や理論を各自で復習しておく、スムーズに演習に入ることができると思われます。演習は集中力が必要で少し体力的にもたいへんですが、楽しみながら学びましょう。

講義概要・授業計画 情報資源組織論に基づき、演習(主題)では、『日本十進分類法(NDC)新訂10版』による分類作業、『基本件名標目表(BSH)第4版』による件名作業を通じて、それらのツールの使用方法を詳しく学びます。

ツール 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂10版』(日本図書館協会、2014)
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』(日本図書館協会、1999) ※ツールはご用意します。

アドバイス テキストの解説を読み、NDCやBSHを使用して演習問題を解いていきます。利用者や自分が主題検索する場合の事を考えながら作業をして下さい。テクニカルタームが多く難しいので、分からないことが生じたらすぐに質問をするようにして下さい。

講義概要・授業計画 情報資源概論で学んだ地域資料、政府刊行物を中心に公立図書館に特徴的な資料についてより深く学習します。具体的には公立図書館（特に基礎自治体の設置する図書館）の本質と関連させながら図書館資料の収集・蔵書管理・保存・提供を念頭に図書館の資料（情報源）を考えます。また、図書館や情報サービスに関する諸問題についてもグループ討論や全体討論を行います。

1. 図書館資料の現状（図書と雑誌）
2. 政府刊行物の種類と運用
3. 地域資料の種類と運用
4. 障がい者サービスと資料
5. 地域の学校・学校図書館支援と公立図書館
6. 資料収集の諸問題
7. 資料提供の諸問題
8. まとめ

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）
（版元品切れにつき、最寄りの図書館で借りて読んでおきましょう）

アドバイス 最寄りの公立図書館へ行き、各種資料を手にとってみましょう。また公立図書館が存在する意義も考えておきましょう。上記参考書『新版 図書館の発見』を事前に熟読することをおすすめします。

図書館文化史

講師 もり あかね
森 茜

講義概要・授業計画 「歴史はシュメールに始まる」と言われ、文字と様々な記録媒体の発明を経て、紙パルプと活版印刷の発明は、情報を記録し、伝播させる技術を飛躍的に進歩させ、人類文化の大いなる発展をもたらしました。記録媒体としての図書と、様々な形で記録された図書等の記録物を有機的に収集し、流通させる機能を持つ図書館は、そのような紙と印刷技術の発達の中で発展し、人類の文化のありように大きな影響を与えてきました。

ところが、20世紀になって発明された電子技術は、記録媒体と情報伝搬技術を一変させ、印刷物として出版される図書でさえも電子技術の中で生産されるようになり、今や、21世紀も5分の1を経過し、電子技術の進歩は人々の予想をはるかに超える高度なものとなり、社会構造そのものを変貌させるものとなりました。図書館という建物の中に行かなくても、日常生活のあらゆるところで書物を読み、情報に接触し、情報交流ができることとなり、AI技術の進歩によって、だれでもが情報を加工することさえできるようになりました。言わば、世の中全体が図書館化し、情報の共有化が多層的になり、情報が情報を生む社会になりました。

このような時代にあって、図書と図書館の歴史を理解することによって、情報を記録し、伝播させるという行為が、人類の文化と社会の発展にとってどういう意味を持っていたのか、また、電子情報技術の発達は、今後の人類の文化とその発展に何をもたらすのかを考えます。

1. 紙以前の記録媒体
2. 古代の図書及び図書館
3. 中世前期の図書及び図書館
4. 中世後期の図書及び図書館
5. 近世前期の図書及び図書館
6. 近世後期の図書及び図書館
7. 近代市民革命と図書館
8. 現代の図書館

教科書 寺田光孝ほか 著『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ12）（樹村房、1999）
今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

アドバイス 図書館はいつの時代でも社会のありようと無縁ではられません。ライブラリアンを志す者は、常に社会のことに関心を持ちましょう。そうすれば図書館で仕事をするの意味が見えてきます。